

< 認知症対応型共同生活介護用

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105057
法人名	株式会社 メディコープ
事業所名	グループホーム おあしす坂之上
訪問調査日	平成 21 年 1 月 21 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4670105057
法人名	株式会社 メディコープ
事業所名	グループホーム おあしす坂之上
所在地	鹿児島市坂之上1丁目47番22号 (電話) 099 - 284 - 6636

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成21年1月21日 評価確定日 平成21年2月24日

【情報提供票より】20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 8 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	17 人	常勤 12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	14.1

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建て	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000円(水道光熱費)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000	円

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	12名	男性	2名	女性	10名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.3歳	最低 69歳	最高 96歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合病院鹿児島生協病院 ・ 谷山生協クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市の南部に位置し、JR指宿枕崎線や国道にも近い閑静な高台の住宅地にグループホームおあしす坂之上がある。ホームのリビングからは遠く錦江湾を臨むことができ、周りには畑もあり散歩しながら野菜の出来具合を見るのも楽しみのおあしす坂之上である。管理者と職員は、利用者が自分らしく楽しく生活できる環境づくりを支援し、生活協同組合の理念である「協同」と「助け合い」の精神を持って毎日のケアにあたっている。また、医療生協のバックアップと医療連携体制により、看護師による利用者の健康管理も行われており、家族も利用者も安心して生活できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価の結果については、職員に報告し改善に取り組んでいる。家族への報告については、金銭出納帳をコピーして、領収書と一緒に送付するように改善している。職員を育てる取り組みでは、内部研修の年間計画を作成し、実施している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員が、ユニットごとのミーティング時などに集まって、項目ごとに意見を出し合い、管理者がまとめている。職員から「利用者を地域のお達者クラブなどに参加させて外出の機会を増やせるようにしたらどうか」という意見も出され、ケアを振り返る良い機会となっている。</p>
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	<p>運営推進会議には、地域区長、利用者、家族代表、包括支援センター、管理者が参加し2ヶ月に1回行われている。利用者の状況や事業所の行事、業務内容、職員の研修状況、外部評価の内容についてなど報告し参加者の意見交換を行っている。地域区長から地域の行事予定などの情報を得て利用者が参加できるように配慮している。</p>
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	<p>家族の面会時や運営推進会議などで家族からの意見、要望などを話していただけるように配慮している。面会時や電話などで得られた内容については、申し送りノートに記載し、職員全員が共有できるようにしている。</p>
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>町内会に加入し、地域の夏祭りに参加したり、あいご会の資源回収への協力、校区中学校の職場体験学習の受け入れなど積極的に行っている。また、近所の方々とも散歩時に挨拶を交わし話をしたり、畑で採れた野菜を頂くなど交流している。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての取り組み内容は運営方針の中に盛り込まれており、基本理念については、生活協同組合の理念である「協同」と「助け合い」の精神を大切にしている内容となっている。		地域密着型サービスとして何が大切であるか、事業所として大切にしていることはどんなことかを職員全員で話し合い、事業所独自の理念を作られることを希望します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のネームの裏に基本理念を入れ、毎朝の申し送りやミーティングの後に唱和して確認している。職員は利用者一人ひとりの個性を大事にした支援を心がけ、利用者の話を良く聴くことに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の夏祭りやあいご会の資源回収への協力、校区の中学校の職場体験の受け入れなど積極的に行っている。近隣の方々とも挨拶を交わし話をしたり、畑で採れた野菜を頂くなど交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果については職員に報告し改善に向けた取り組みが行われている。今回の自己評価については、各ユニットごとに職員が集まって、項目ごとに意見を出し合い記入したものをもとに管理者がまとめている。評価を通して、外出の機会を増やせるようにしたいと職員からの意見が上がり、検討段階である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、区長、家族代表、利用者、包括支援センター、管理者が参加して行われている。事業所から利用者の状況、行事内容の報告、外部評価についてなどの報告を行い、参加者の意見交換をおこなっている。区長からは地域の行事の情報などを得て、利用者が参加できるように配慮している。		

鹿児島県 グループホームおあしす坂之上

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務的な手続きでわからないことを相談したり、介護相談員の受け入れなどを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「おあしす坂之上だより」を定期的に発行し、写真入りで利用者の日頃の様子などを伝えている。健康状態については、面会時や電話などで報告している。金銭出納帳は面会時に確認印をもらうと共に、出納帳のコピーと領収書を家族に郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時などに事業所に対する意見や要望など言ってもらえるように配慮している。面会時や電話で受けた内容については、申し送りノート等に記載し管理者・全職員が共有している。話し合いが必要な場合はミーティングを行い改善に努めている。		家族同士が集まれる場面作りをして、家族の意見等を表せる機会を作っていかれることを希望します。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットで職員を固定化し、年間の異動、離職も最小限に抑えられている。職員の交代がある場合には、引継ぎの期間を1ヶ月みており、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については年間計画を立て、定期的に行っている。外部研修については、参加した職員が報告書を提出し、職員会議で報告し共有している。地域のグループホーム勉強会には、多くの職員が参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区グループホーム勉強会のネットワークが作られて、事例検討会や定期的勉強会が行われている。職員が他のグループホームに見学に行ったりすることで、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用するにあたっての相談を家族から受けた場合には、職員が自宅に出向き利用者や家族の状況を把握し、可能な方は本人にホームを見学してもらっている。やむを得ず急な利用となった場合でも、家族に見学に来てもらい雰囲気を伝えてもらうなど、安心感を持ってもらえるように連携を取っている。		利用開始に当たっては、可能な方はホームの見学はしてもらっているが、レクレーションへの参加・利用者との懇談など雰囲気を体験できるような工夫も望みます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	散歩をしながら利用者から昔の食事作りの話を聞いたり、掃除と一緒にしながら昔の職業のことを聞いたり、話を聞くことを大切にしている。プランターの花の植え替えや門松作り、行事料理などを教えてもらうなどしながら、職員と利用者が助け合う関係作りをしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前相談記録を作成し家族や本人の意向を確認している。入居後は、日常会話や行動、表情などから利用者の意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように日頃の関わりの中で、本人の思いや意見を聞き、家族からは面会時や電話連絡時等に希望や要望を聞いて介護計画を作成している。毎月のカンファレンスから職員の気づきや、意見、主治医からの指示や看護師からのアドバイスを受けて、介護計画に反映させている。		介護計画には家族の気づきや意見も反映させていけるように、担当者会議への参加を家族に促していかれることを希望します。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標についての評価は毎日記録しており、気づいた事なども記録しているので、状態が変化した場合には、すぐ見直しをおこなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして看護師による健康管理を行い、かかりつけ医の往診も行っている。家族からの要望があれば通院介助などにも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医がある方はそのまま継続しているが、本人や家族が協力医療機関にかかりつけ医を希望される場合には変更を行っている。職員が通院介助に付き添った場合には、主治医からの指示などの報告を、電話で家族に連絡している。定期受診についても電話で連絡している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書の中に「重症化した場合の対応に係る指針」と「看取りに関する指針」を明記し契約時に家族に説明している。職員も承知しており、緊急時の対応マニュアルを作成し、半年に1回勉強会を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが利用者のプライバシーを損ねない声かけに努めており、カンファレンスなどで意識の徹底を図っている。個人情報については、秘密保持の誓約が入職時に交わされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、食事時間をずらしたり、行きつけの散髪屋に行ったり、新聞や本を読んだり、職員と手芸を楽しんだりして過ごしている。計算問題を解くことや、散歩を日課としている利用者もあり、それぞれの希望に沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの力量に応じて、お盆拭きやテーブル拭き、野菜の下ごしらえ、下膳などを行っている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、利用者と会話をしながら、さりげなく介助し、楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴できるようになっており、利用者の入る順番や湯温などの希望に沿うように努めている。入浴を拒む利用者に対しては、声かけの職員を代えたり、トイレに行った時や散歩の後などに誘導するなど工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持てる力を発揮してもらい、毎朝洗面台の掃除や、洗濯物干し、お盆拭きなど役割をもってもらうことで喜びや自信をもってもらえるように支援している。利用者の得意なことから楽しみを見出す提案をしたり、それぞれにあった場面づくりを心がけ支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の心身の状況を見ながら散歩に行ったり、利用者の希望に沿って買い物、ドライブなどに出かけている。また、利用者の誕生日には食べたい物を聞いて外食に行くなどいつでも出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間に施錠するが日中はかけていない。玄関に立つとセンサーが反応しチャイムが鳴るようになっており、外出傾向にある利用者については把握されており、必ず職員が付き添うようにしている。また、近隣の方々にも理解を求めており、声かけや連絡をしてもらえるようお願いしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、年2回、昼夜想定消防訓練を行っている。自動火災報知設備や消防署直通の火災通報装置も設置し、緊急の連絡網も作成されている。		職員が自信を持って行動できるように、地震想定自主訓練をされること、近隣の協力を得られるように働きかけを行なわれることを希望します。

鹿児島県 グループホームおあしす坂之上

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量については毎日記録され、状況に変化がないかチェックされている。栄養バランスについては、協力医療機関の管理栄養士より定期的に見てもらいアドバイスをうけている。食事形態や介助方法も利用者に合わせた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前と2階のウッドデッキには利用者と一緒にプランターに植えた花が並んでいる。リビングの入り口には、利用者が書いた書初めが飾られている。台所が対面式になっているので、利用者の様子もわかり、包丁の音や料理の匂いもして家庭的である。窓も大きく、照明も柔らかい光で落ち着ける雰囲気である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のドアには表札が掛けられていたり、写真やリースなどを飾り本人とわかるように工夫している。居室は洗面台だけが備え付けとなっており、使い慣れたベット、タンス、テーブル、椅子、テレビ、時計などが持ち込まれ、壁には写真や手芸の作品などを飾り、その人らしい様子がうかがえる部屋作りになっている。		